

令和2年度  
(令和元年度実績)

# 食肉衛生検査業務概要



鹿児島市食肉衛生検査所

## はじめに

鹿児島市食肉衛生検査所の業務につきましては、日頃より格別のご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が世界規模で拡大し、社会・経済活動などに深刻な影響を与えています。わが国では東京オリンピック・パラリンピックが延期となり、畜産業界においても、外出自粛や都市封鎖による牛肉需要の減少を受け、和牛枝肉相場の低迷、食肉輸出量が減少するなど厳しい状況が続いています。

国内で26年ぶりに発生している豚熱については、農場でのワクチン接種が効果を見せる一方で、野生イノシシでの感染が広がり続けています。近隣諸国ではアフリカ豚熱、口蹄疫が継続的に発生しており、国内への侵入リスクも高まっています。当所においても関係機関との連携を強化するとともに、と畜場への防疫及び衛生指導を実施し、と畜場を介した疾病の蔓延防止に努めてまいります。

今年6月に、我が国の食をとりまく環境変化や国際化等に対応して食品の安全を確保することを目的とした「食品衛生法等の一部を改正する法律」が施行されました。これにより、全てのと畜場にHACCPに基づく衛生管理が制度化され、1年の猶予期間を経て本格実施されます。と畜検査員による外部検証の実施についても明確にされ、検証の手法や評価方法等についても新たに規定されました。当所では引き続き、外部検証を通してと畜場設置者への積極的な指導・助言を行うとともに、HACCPシステムの継続的な改善に取り組み、食肉の衛生水準向上を図って参ります。

今後も最新知識の習得や検査技術の向上に努めるとともに、と畜検査による疾病の排除、と畜場に対する衛生監視指導、残留有害物質のモニタリング検査や微生物汚染実態調査等を実施し、より一層の食肉の安心・安全の確保に取り組んでまいります。

ここに令和2年度食肉衛生検査業務概要（令和元年度実績）を取りまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

令和2年7月

鹿児島市食肉衛生検査所長

田邊 隆

# 目 次

## 第1章 検査所の概要

1	沿革	1
2	所在地	2
3	組織機構	3
4	職員構成	3
5	事務分掌	3
6	検査手数料等	4
	(1) と畜検査手数料	
	(2) と畜場使用料・とさつ解体料	
7	食肉衛生検査所管理棟平面図	5、6
8	主要検査機器	7
9	鹿児島食肉センターの概要	8

## 第2章 と畜検査業務の概要

1	と畜検査頭数	
	(1) 年度別と畜検査頭数	9
	(2) 年度別と畜検査頭数の推移	9
	(3) 月別と畜検査頭数	10
	(4) 月別と畜検査頭数の推移	10
	(5) 出荷地別と畜検査頭数	11
	(6) 豚の湯剥ぎ、皮剥ぎの推移	11
2	と畜検査に基づく廃棄処分措置	
	(1) とさつ禁止又は廃棄の疾病別頭数	12
	(2) 年度別全部廃棄頭数の推移	13
	(3) 牛の全部廃棄状況	14
	(4) 豚の全部廃棄状況	15
3	精密検査実施状況	
	(1) 枝肉の拭き取り検査	16
	(2) 抗菌性物質の残留検査	16
	(3) BSE(牛海綿状脳症)の検査	17
4	輸出食肉に係る業務	17
5	その他	
	衛生講習会	17

## 第3章 調査研究、研修等

1	調査研究部会	18
2	調査研究及び発表	18
3	職員の技術研修等	18、19

# 第1章 検査所の概要

## 1. 沿革

明治 42 年 7 月	『鹿児島市営と畜場』を鹿児島郡伊敷村字松木川原に設置
大正 9 年 10 月	伊敷村の一部合併により経営権を伊敷村へ移譲
大正 13 年 7 月	と畜場を伊敷村下伊敷 557 - 2 に移転し、名称を『伊敷村営屠場』へ
昭和 25 年 10 月	伊敷村との全面合併により、経営権を鹿児島市へ移行 と畜検査業務は保健所公衆保健課が所管
昭和 32 年 10 月	と畜場を郡元町 2411 (現：新栄町 22-34) に移転
昭和 34 年 10 月	機構改革により所管を中央保健所公衆保健課から中央保健所公衆衛生課へ変更
昭和 46 年 10 月	中央保健所公衆衛生課に食肉検査係を新設
昭和 50 年 2 月	試験検査室の新築
昭和 53 年 2 月	病畜棟の新築、検査員事務室の増築
平成 4 年 4 月	食肉検査係から食肉検査課に昇格
平成 8 年 4 月	鹿児島市が中核市へ移行
平成 8 年 10 月	と畜場を新栄町 22-34 から下福元町 7852 に移転
平成 9 年 4 月	食肉検査課から食肉衛生検査所へ改称
平成 11 年 1 月	と畜場が対香港輸出豚肉取扱施設として認定
平成 12 年 4 月	機構改革により環境局中央保健所食肉衛生検査所から 健康福祉局保健所食肉衛生検査所へ変更
平成 15 年 4 月	と畜場を民営化し、名称を『鹿児島食肉センター』へ
平成 19 年 2 月	試験検査室等の増築
平成 22 年 4 月	と畜場が対タイ輸出牛肉取扱施設として認定 と畜場が対マカオ輸出牛肉取扱施設として認定
平成 26 年 9 月	と畜場が対ベトナム輸出牛肉取扱施設として認定
平成 30 年 8 月	と畜場が対ミャンマー輸出牛肉取扱施設として認定
平成 30 年 10 月	と畜場が ISO22000 を取得
令和 2 年 2 月	と畜場が対ベトナム輸出豚肉取扱施設として認定

## 2. 所在地

名 称 鹿児島市食肉衛生検査所（鹿児島食肉センター内）

郵便番号 891-0144

住 所 鹿児島市下福元町7852

電 話 (099) 262-2116

F A X (099) 262-4940

e m a i l syokuniku@city.kagoshima.lg.jp

### アクセス方法

#### ①電車を利用

J R鹿児島中央駅より、J R指宿枕崎線「指宿行き」に乗車、J R五位野駅で下車  
J R五位野駅から鹿児島食肉センターまでタクシーで約5分、徒歩で約20分

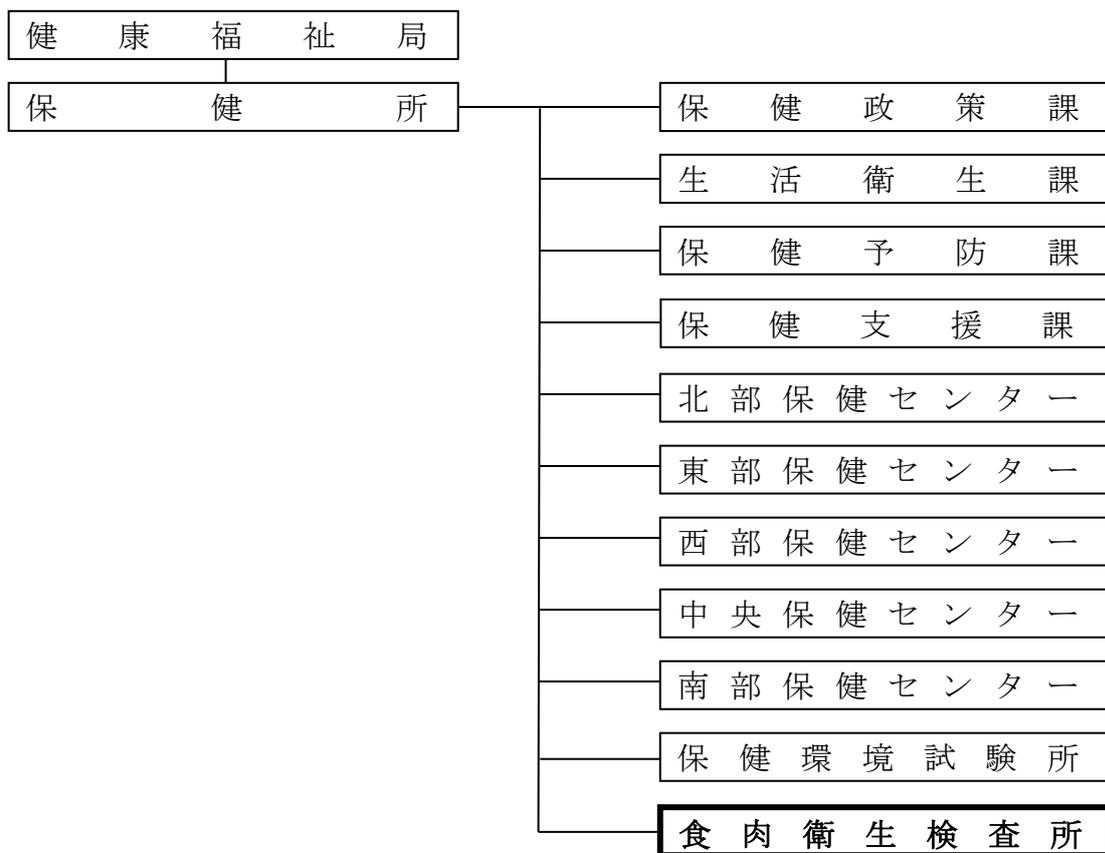
#### ②航空を利用

鹿児島空港よりバス利用の場合

高速バス（直行便）でJ R鹿児島中央駅まで約40分 その後電車を利用



### 3. 組織機構



### 4. 職員構成

令和2年7月1日現在

職名	所長	主幹	主査	主任	獣医師	主査	会計年度任用職員		合計
職種	獣医師					事務	補助員	事務	
人数	1名	2名	3名	6名	1名	1名	10名	1名	25名

### 5. 事務分掌

鹿児島市組織及び事務分掌等に関する規則（抜粋）

- (1) と畜場法に基づくと畜検査及び衛生指導に関すること。
- (2) 食品衛生法に基づく監視指導、収去・検査及び措置に関すること。  
(他の所掌に係るものを除く。)
- (3) 手数料の収納に関すること。
- (4) 公印の保管に関すること。
- (5) その他所に属する軽易な庶務に関すること。

食鳥検査については、市保健所生活衛生課食品衛生係が所掌し、指定検査機関の公益財団法人鹿児島市獣医公衆衛生協会に検査業務を委任している。

## 6. 検査手数料等

### (1) と畜検査手数料

(1頭あたりの料金)

区 分	時間内	時間外
牛・馬	760 円	1,520 円
子牛・子馬	380 円	760 円
豚	350 円	700 円
乳とく・めん羊・山羊	170 円	340 円

平成 19 年 4 月 1 日から適用

### (2) と畜場使用料・とさつ解体料

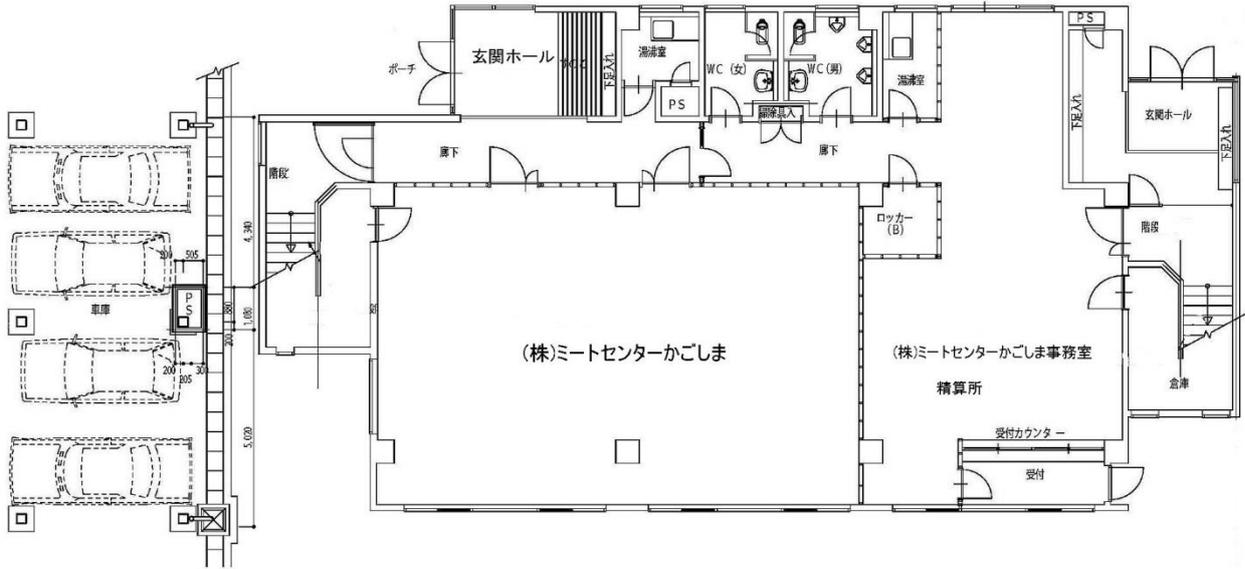
(1頭あたりの料金)

区 分			時間内	時間外
と畜場使用料	牛・馬		2,244 円	3,366 円
	子牛・子馬		1,122 円	1,683 円
	豚	皮剥ぎ	1,122 円	1,683 円
		湯剥ぎ	1,265 円	
	乳とく・めん羊・山羊		242 円	363 円
とさつ解体料	牛・馬		5,286 円	8,597 円
	子牛・子馬		3,258 円	6,996 円
	普通	皮剥ぎ	705 円	3,503 円
		湯剥ぎ		
	大豚	皮剥ぎ	(機 械)	1,453 円
			(手剥ぎ)	1,879 円
		湯剥ぎ	1,453 円	
乳とく・めん羊・山羊		1,602 円	5,340 円	

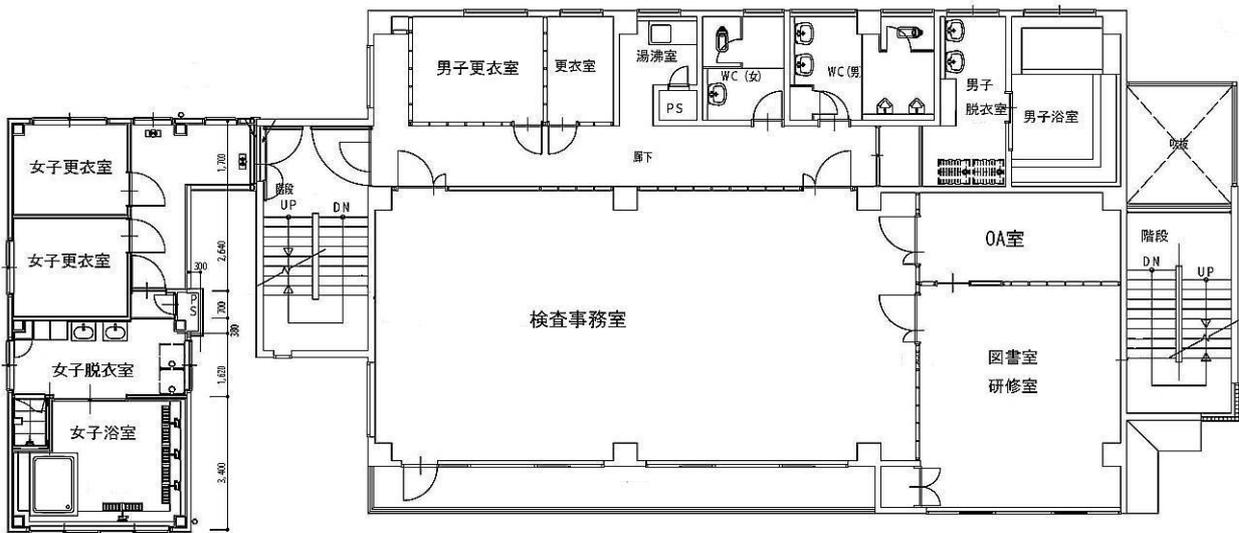
令和元年 10 月 1 日から適用

# 7. 食肉衛生検査所管理棟平面図

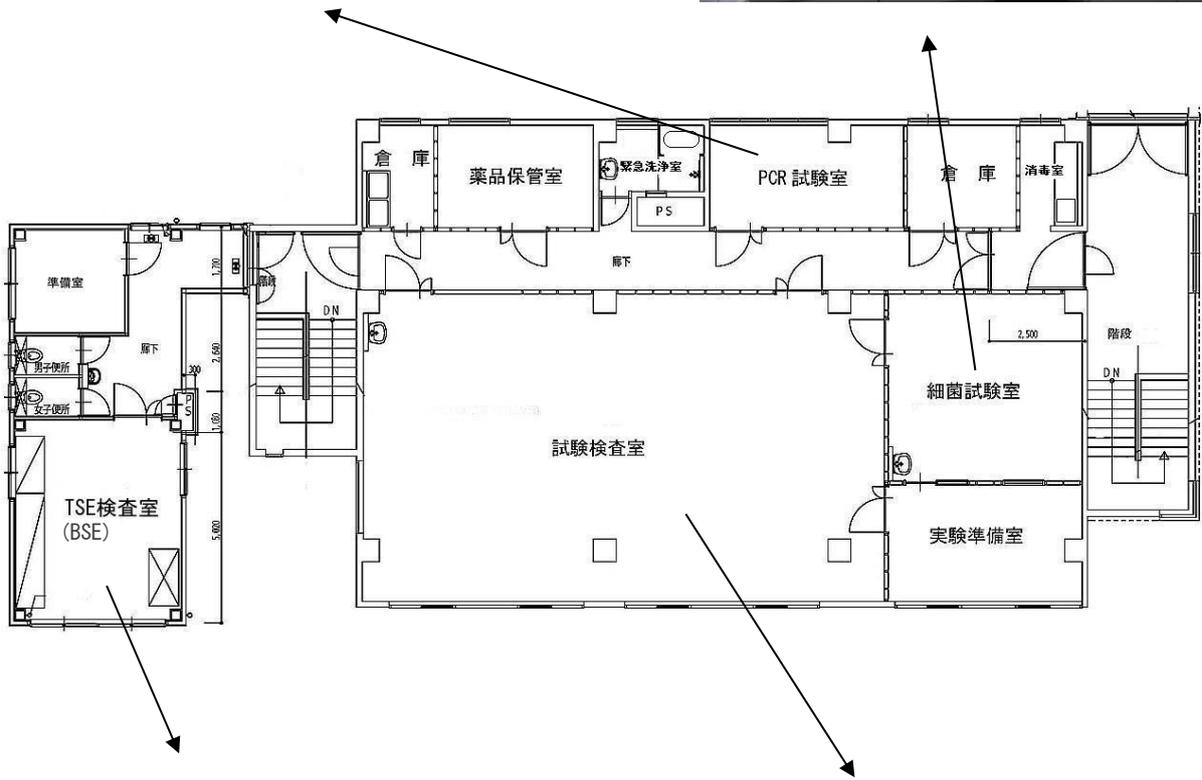
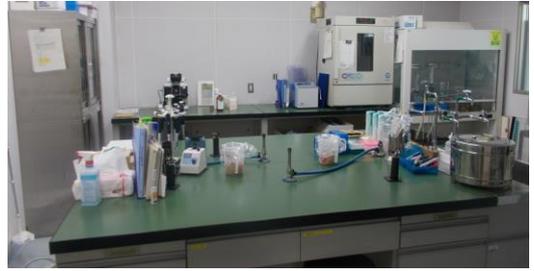
管理棟 1階



管理棟 2階



管理棟 3階



## 8. 主要検査機器

微生物検査関係	乾熱滅菌器	インキュベーター	ミキサー
	マグネットスターラー	高圧蒸気滅菌器	実体顕微鏡
	位相差顕微鏡	嫌気培養器	ディープフリーザー
	高速冷却遠心機	ディスクッション顕微鏡	保冷库
	冷蔵ショーケース	バイオクリーンベンチ	試験管攪拌器
	ストマッカー	電気泳動装置	電気泳動ゲル撮影装置
	湯煎器	DNA増幅装置	紫外線照射装置
	アルミブロック恒温槽 卓上型ドラフト	安全キャビネット	微量電子天秤

理化学検査関係	超音波洗浄機	インキュベーター	高速液体クロマトグラフシステム
	電子分析天秤	水分測定器	ロータリーエバポレーター
	pHメーター	アスピレーター	分液ロートシェーカー
	卓上型生化学検査システム	超高速ホモジナイザー	ピペット洗浄器

病理検査関係	自動固定包埋装置	病理組織検査用顕微鏡システム	パラフィン包埋ブロック作成装置
	クリオスタットマイクロトーム	組織固定用振とう器	パラフィン伸展器
	滑走式マイクロトーム		

BSE検査関係	マイクロプレートリーダー	試験管攪拌機	組織・細胞破碎装置
	マイクロプレートウォッシャー	インキュベーター	高速冷却遠心機
	安全キャビネット	アルミブロック恒温槽	電子天秤
	ディープフリーザー	冷蔵ショーケース	

## 9. 鹿児島食肉センターの概要

(1) 敷地面積 29,846.61 m<sup>2</sup> (9,044 坪)

(2) 建築面積 11,076.96 m<sup>2</sup>

(3) 延床面積 14,461.16 m<sup>2</sup>

・本館棟 12,353.78 m<sup>2</sup>

(m<sup>2</sup>)

		大動物	小動物	共用	合計
とさつ解体施設	係留バース	1,740			7,233
	係留施設	369	958		
	と室・解体室	323	926		
	内臓処理室	144	264		
	休憩室・工作室・廊下等	2,509			
冷蔵室		205	257		462
部分肉処理加工施設		929	1,985	824	3,738
共用施設 (冷凍機械室、医務室等)		920			920
合計		1,670	4,690	5,993	12,353

・管理棟 967.60 m<sup>2</sup>

・病畜棟 262.50 m<sup>2</sup>

・廃棄物処理棟 420.00 m<sup>2</sup>

・受水槽棟 75.56 m<sup>2</sup>

・汚水処理棟 381.72 m<sup>2</sup>

(4) 処理能力

	大動物	小動物
けい留所収容	57 頭	1,000 頭
とさつ・解体	80 頭/日	1,300 頭/日
懸肉・予冷		1,300 頭/日
冷却・冷蔵	200 頭	1,900 頭 (部分肉処理加工施設含む)
部分肉処理加工	45 頭/日	400 頭/日

## 第2章 と畜検査業務の概要

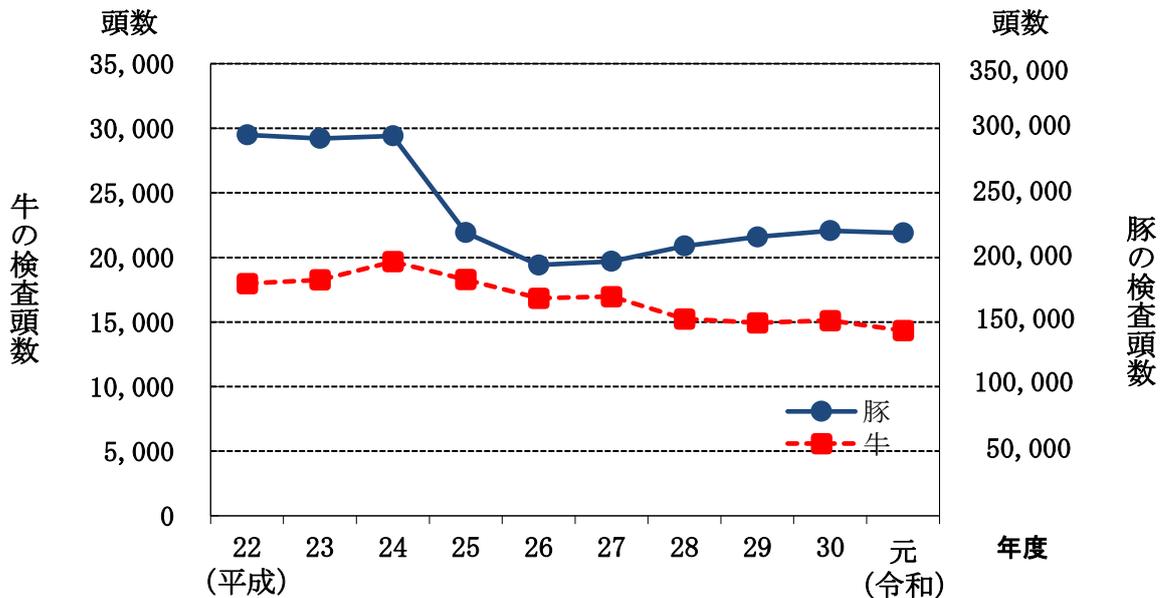
### 1. と畜検査頭数

#### (1) 年度別と畜検査頭数

	牛		子牛		馬		豚		合計
	時間内	外	時間内	外	時間内	外	時間内	外	
平成 22 年度	17,780	135	63	2	5	0	294,839	32	312,856
平成 23 年度	18,126	112	17	5	3	0	292,039	26	310,328
平成 24 年度	19,543	105	20	3	2	0	294,017	32	313,722
平成 25 年度	18,191	90	6	0	0	0	219,180	36	237,503
平成 26 年度	16,719	101	14	3	0	0	194,150	21	211,008
平成 27 年度	16,846	109	12	2	0	0	196,935	35	213,939
平成 28 年度	15,131	102	3	0	0	0	208,772	28	224,036
平成 29 年度	14,840	85	10	1	0	0	215,869	28	230,833
平成 30 年度	15,015	91	6	0	0	0	220,662	23	235,797
令和元年度	14,244	91	4	0	0	0	219,002	11	233,352
	14,335		4		0		219,013		
			14,339		0				

注) 子牛は生後1年未満の牛をいう。

#### (2) 年度別と畜検査頭数の推移

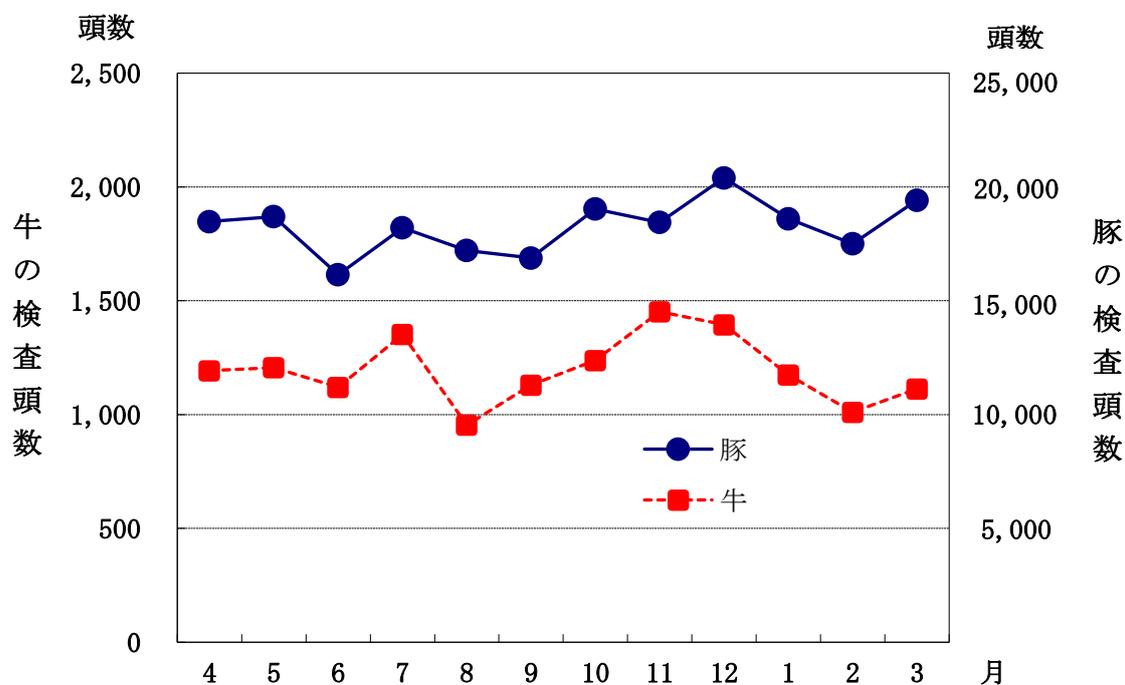


注) 平成 25 年度は、豚の大手出荷者の撤退により大幅減となった。

(3) 月別と畜検査頭数

	牛		子牛		豚		合計
	時間内	外	時間内	外	時間内	外	
4月	1,188	5	0	0	18,474	2	19,669
5月	1,193	12	1	0	18,691	3	19,900
6月	1,109	10	1	0	16,143	1	17,264
7月	1,338	13	1	0	18,204	0	19,556
8月	951	3	0	0	17,207	1	18,162
9月	1,121	8	1	0	16,880	0	18,010
10月	1,229	9	0	0	19,035	0	20,273
11月	1,443	9	0	0	18,440	1	19,893
12月	1,391	4	0	0	20,396	2	21,793
1月	1,172	3	0	0	18,606	0	19,781
2月	1,004	7	0	0	17,506	1	18,518
3月	1,105	8	0	0	19,420	0	20,533
合計	14,244	91	4	0	219,002	11	233,352

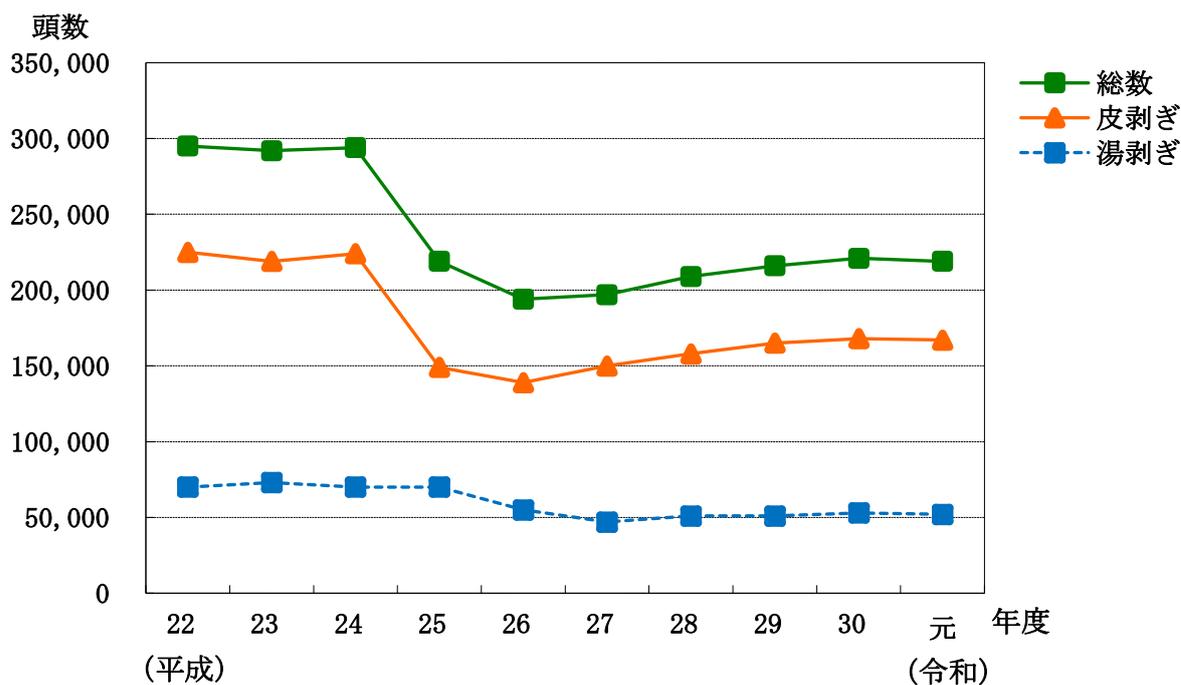
(4) 月別と畜検査頭数の推移



(5) 出荷地別と畜検査頭数

	牛の出荷地							豚の出荷地	
	和牛	乳牛		その他	子牛	総数	%	豚	%
		雌	雄						
鹿児島地区	434	19	0	0	0	453	3.2	586	0.3
指宿地区	961	0	134	477	0	1,572	11.0	7,838	3.6
川辺地区	1,379	51	0	330	0	1,760	12.3	61,240	28.0
日置地区	598	16	0	1	1	616	4.3	0	0.0
薩摩地区	579	7	0	554	0	1,140	8.0	20,174	9.2
出水地区	932	14	0	0	0	946	6.6	8,558	3.9
伊佐地区	338	107	0	265	1	711	5.0	11,189	5.1
始良地区	400	90	1	226	1	718	5.0	5,836	2.7
曾於地区	391	43	0	30	0	464	3.2	37,648	17.2
肝属地区	2,800	73	0	1	0	2,874	20.0	37,812	17.3
熊毛地区	50	4	0	0	0	54	0.4	213	0.1
大島地区	20	0	0	0	0	20	0.1	442	0.2
宮崎県	1,380	710	51	46	0	2,187	15.3	21,744	9.9
熊本県	152	188	3	119	0	462	3.2	5,733	2.6
その他	216	118	0	27	1	362	2.5	0	0.0
合計	10,630	1,440	189	2,076	4	14,339	100	219,013	100

(6) 湯剥ぎ、皮剥ぎ頭数の推移 (豚)



## 2. と畜検査結果に基づく措置

### (1) とさつ禁止又は廃棄の疾病別頭数

種別	と畜場内とさつ頭数	処分内容	処分実頭数		疾病別頭数																			合計			
					細菌病							ウイルス		寄生虫病		その他の疾病											
					炭疽	豚丹毒	サルモネラ症	結核病	ブルセラ病	破傷風	放線菌病	その他	豚コレラ	その他	ジストマ	その他	膿毒症	敗血症	尿毒症	黄疸	水腫	腫瘍	中毒諸症		炎症又は炎症産物	変性又は萎縮	その他
					頭数	%																					
牛	14,335	禁止																									
		全部廃棄	97	0.68							43			10	12	13	6	7	3			3			97		
		一部廃棄	12,415	86.61								62							5		12,018	2,305	1,317		15,707		
子牛	4	禁止																									
		全部廃棄																									
		一部廃棄	3	75.00																	3	3			6		
豚	219,013	禁止																									
		全部廃棄	891	0.41		15	14							481	205	28	9	97	16				26		891		
		一部廃棄	146,660	66.96														22			143,775	3,640	8,642		156,079		
合計	233,352		160,066							43		62		491	217	41	15	104	46		155,796	5,977	9,959	172,780			

(2) 年度別全部廃棄頭数の推移

牛

年度 疾病	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R 元年度
膿毒症	7	8	5	7	4	9	10	10
敗血症	10	15	11	8	10	3	11	12
尿毒症	8	3	2	2	9	6	13	13
高度の黄疸	4	6	4	4	0	4	7	6
高度の水腫	26	11	20	11	12	8	7	7
腫瘍	13	15	3	0	1	5	8	3
変性又は萎縮	0	0	1	2	0	1	3	3
ウイルス (牛白血病等)	41	50	27	28	17	33	56	43
その他	0	0	0	0	0	1	0	0
合計	109	108	73	62	53	70	115	97

豚

年度 疾病	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R 元年度
膿毒症	261	196	191	231	283	361	400	481
敗血症	167	87	96	75	80	151	306	205
尿毒症	20	11	6	11	8	11	28	28
豚丹毒	80	131	30	38	31	26	41	15
高度の黄疸	5	2	6	5	6	5	22	9
高度の水腫	256	104	98	32	52	63	72	97
腫瘍	24	8	3	4	6	11	16	16
炎症又は炎症 産物	0	0	0	0	0	0	0	0
変性又は萎縮	34	24	23	21	30	19	20	26
サルモネラ症	0	0	0	0	0	18	66	14
その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	847	563	453	417	496	665	971	891

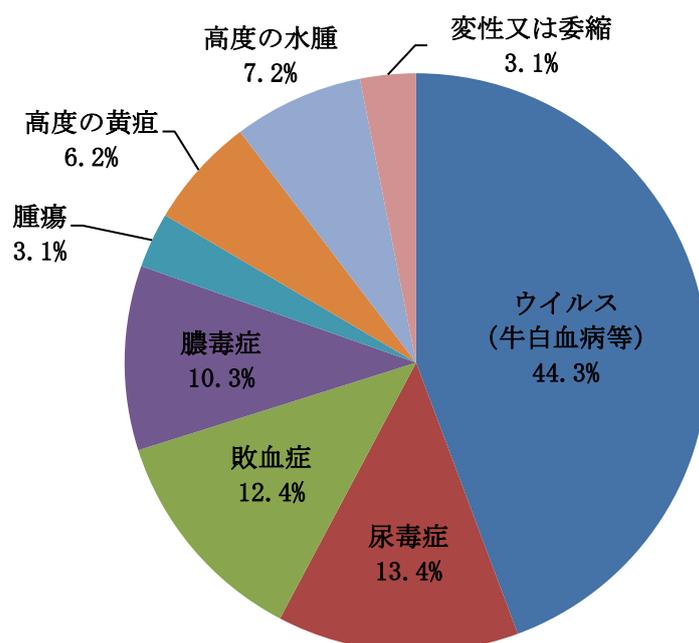
### (3) 牛の全部廃棄状況

#### 月別全部廃棄頭数

	牛									
	膿毒症	敗血症	尿毒症	高度の黄疸	高度の水腫	腫瘍	その他	変性又は萎縮	ウイルス (牛白血病等)	合計
4月	1	0	4	0	0	0	0	2	1	8
5月	1	2	0	0	2	0	0	0	6	11
6月	2	1	1	1	0	0	0	0	6	11
7月	0	0	3	1	1	0	0	0	9	14
8月	2	0	0	1	0	1	0	1	2	7
9月	0	4	1	1	0	1	0	0	6	13
10月	0	1	0	0	2	1	0	0	4	8
11月	0	1	1	1	1	0	0	0	1	5
12月	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
1月	0	2	0	0	1	0	0	0	1	4
2月	0	0	2	1	0	0	0	0	3	6
3月	4	0	1	0	0	0	0	0	3	8
合計	10	12	13	6	7	3	0	3	43	97

(子牛含む)

#### 全部廃棄の疾病別割合

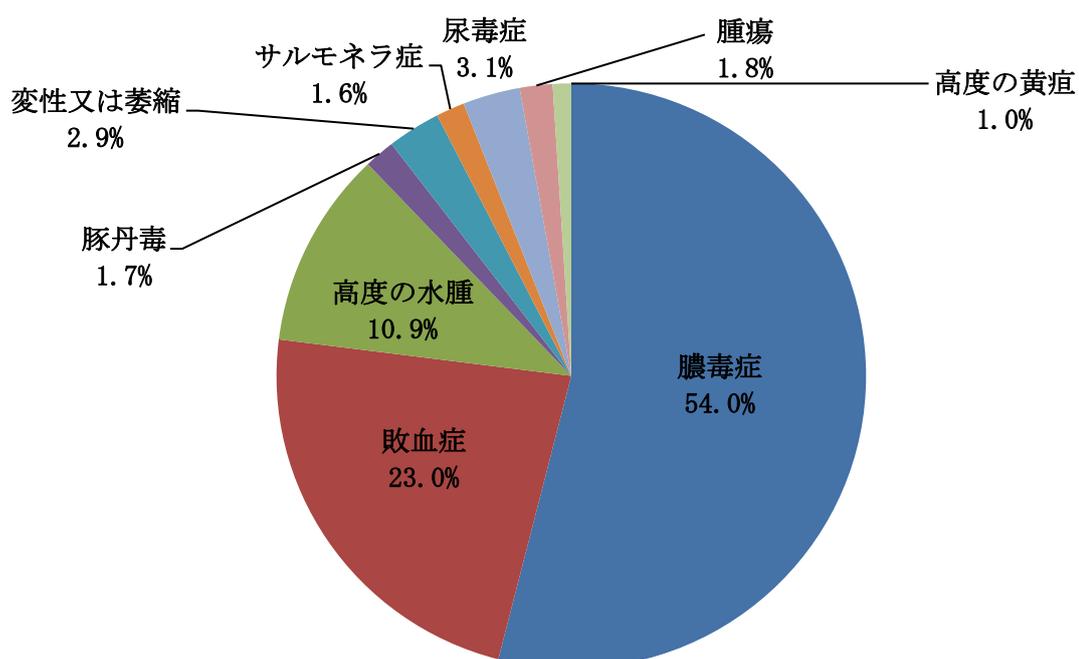


#### (4) 豚の全部廃棄状況

##### 月別全部廃棄頭数

	豚											
	豚丹毒	膿毒症	敗血症	尿毒症	高度の黄疸	高度の水腫	腫瘍	産物または炎症による汚染	変性又は萎縮	サルモネラ症	その他	合計
4月	0	30	15	0	0	11	1	0	2	2	0	61
5月	4	22	13	3	0	6	1	0	4	1	0	54
6月	3	39	10	1	0	3	2	0	2	4	0	64
7月	2	51	20	2	2	7	2	0	0	0	0	86
8月	1	40	19	1	1	10	0	0	0	0	0	72
9月	0	51	10	1	1	6	2	0	1	2	0	74
10月	0	62	11	6	0	13	2	0	0	1	0	95
11月	0	44	10	2	0	4	2	0	4	3	0	69
12月	1	33	24	5	2	6	0	0	1	0	0	72
1月	1	33	41	2	2	13	1	0	6	1	0	100
2月	2	45	14	1	0	11	2	0	1	0	0	76
3月	1	31	18	4	1	7	1	0	5	0	0	68
合計	15	481	205	28	9	97	16	0	26	14	0	891

##### 全部廃棄の疾病別割合



### 3. 精密検査実施状況

#### (1) 枝肉の拭き取り検査

(検体数)

項目 種別	一般細菌数	大腸菌群数	腸管出血性 大腸菌	サルモネラ 属菌	黄色ブドウ 球菌
牛	95	95	55	55	55
豚	95	95		55	55
合計	190	190	55	110	110

#### (2) 抗菌性物質の残留検査

##### ① 抗菌性物質の残留疑いの検査

区分	畜種	牛	子牛	豚	合計
検査頭数		261	3	427	691
検査結果 (陽性)	頭数	3	0	10	13
	枝肉	2	0	5	7
	肝臓	2	0	6	8
	腎臓	3	0	10	13
処分状況	食品衛生法適用	0	0	0	0
備考	自主廃棄	2	0	5	7

##### ② 疾病疑いによる保留での検査

区分	畜種	牛	子牛	豚	合計
検査頭数		133	1	1,119	1,253
検査結果 (陽性)	頭数	2	0	17	19
	枝肉	0	0	11	11
	肝臓	1	0	11	12
	腎臓	2	0	16	18
処分状況 (検査結果が陽性の 症例について)	食品衛生法適用	0	0	0	0
	他の疾病名で 全部廃棄	1	0	12	13
備考	自主廃棄	0	0	0	0

##### ③ モニタリング検査結果 (厚生労働省通知に基づく検査)

食品	検査検体数	検査項目		検査結果
		抗生物質(系統)	合成抗菌剤(薬剤)	
牛の筋肉	10	4	7	検出せず
牛の腎臓	10	4		
豚の筋肉	20	4	7	
豚の腎臓	20	4		

※抗生物質簡易検査4系統(テトラサイクリン系、アミノグリコシド系、マクロライド系、ペニシリン系)

※合成抗菌剤一斉分析7薬剤(スルファメゾニウム、スルファメトキサゾール、スルファジメトキサゾール、チアゾリドン系、オキサリドン系、トリメトプリム、ピリメタミジン)

### (3) B S E (牛海綿状脳症) の検査

(検体数)

	牛 (子牛を含む)	B S E 検査頭数	B S E 検査対象
平成 27 年度	16,969	4,000	48 か月齢を超える牛
平成 28 年度	15,236	3,171	48 か月齢を超える牛
平成 29 年度	14,936	0	24 か月齢以上の牛で神経症状等を呈する牛※
平成 30 年度	15,112	3	24 か月齢以上の牛で神経症状等を呈する牛※
令和元年度	14,339	1	24 か月齢以上の牛で神経症状等を呈する牛※

※平成 29 年 4 月から健康牛については廃止。24 か月齢以上の牛で神経症状等を呈する牛について、と畜検査員が必要と判断する場合につき実施する。

## 4. 輸出食肉に係る業務

牛肉の輸出状況

輸出国名 年度	タイ		マカオ		ベトナム		合計	
	件数	重量(kg)	件数	重量(kg)	件数	重量(kg)	件数	重量(kg)
平成 28 年度	56	1,905.765	25	2,680.4	0	0	81	4,586.165
平成 29 年度	48	2,749.037	15	1,045.9	0	0	63	3,794.937
平成 30 年度	54	17,848.557	9	1,925.1	11	3,533.25	74	23,306.907
令和元年度	47	21,055.34	17	6,606.1	12	4,036.1	76	31,697.54

## 5. その他

食肉センター従事者及び市民を対象とした衛生講習会を実施した。

講習会内容	対象者	受講者数	実施時期・回数
H A C C P について	食肉センター 従事者	42 名	令和元年 11 月 (1 回)
令和元年度枝肉拭き取り検査結果について		45 名	令和 2 年 2 月 (2 回)
豚コレラ (豚熱) について		44 名	
安心して食べられる食肉をめざして	市 民	7 名	令和元年 7 月 (1 回)

## 第3章 調査研究、研修等

### 1. 調査研究部会

鹿児島県食肉衛生検査所協議会の三部会に参加し、それぞれのテーマについて調査・研究・情報交換等を行った。

年 月	テーマ	場 所
令和元年 5、11 月 令和 2 年 2 月	<微生物部会> ・豚腸腺腫症（P I A）を疑う小腸炎症例の検討	第 1 回 鹿児島県末吉食肉衛生検査所
	<病理部会> ・病理初心者に向けた主要臓器の直接スタンプレットと組織標本の比較集の作成	第 2 回 鹿児島県獣医師会館 鹿児島県末吉食肉衛生検査所
	<理化学部会> ・テトラサイクリン系試験法を用いたドキシサイクリン試験法の検討	第 3 回 鹿児島県獣医師会館

### 2. 調査研究及び発表

下記テーマについて調査研究及び発表を行った。

調査研究テーマ	発表学会等
「白金耳を用いた採材およびDNA熱抽出法による牛白血病ウイルスの簡易PCR法について」	獣医学術九州地区学会

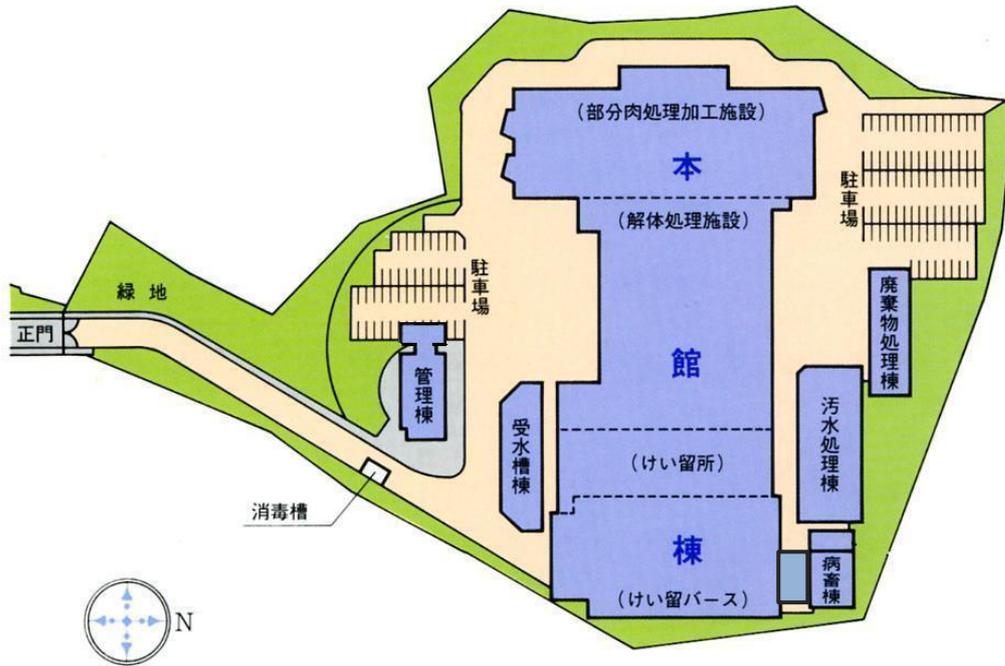
### 3. 職員の技術研修等

検査員の資質向上のため、研修会及び学会等へ参加した。

年 月	業務研修の内容	場 所
令和元年 6～7 月	国立保健医療科学院研修食肉衛生検査研修	和光市
令和元年 10 月	全国食肉衛生検査所協議会理化学部会総会及び研修会	さいたま市

令和元年 10～11 月	九州地区食肉衛生検査所所長会及び研究部会並びに研修会	那覇市
令和元年 11 月	全国食肉衛生検査所協議会微生物部会総会及び研修会	甲府市
令和元年 11 月	全国食肉衛生検査所協議会病理部会総会及び研修会	相模原市
令和元年 11 月	九州地区獣医師大会並びに獣医学術九州地区学会	佐賀市
令和元年 11 月	H P L C 入門講習会	京都市
令和元年 11 月	新規採用と畜・食鳥検査員技術研修会	曾於市
令和元年 12 月	対米等輸出食肉に係る指名検査員研修	東京都
令和 2 年 1 月	食肉及び食鳥肉衛生技術研修会並びに研究発表会	東京都
令和 2 年 2 月	日本獣医師会獣医学術学会年次大会	東京都

# 施設配置図



## 令和2年度 業務概要

令和2年7月 発行

鹿児島市食肉衛生検査所

〒891-0144

鹿児島市下福元町7852

TEL 099(262)2116

FAX 099(262)4940